

西川内漁港（熊本県苓北町）

●地域の特徴

西川内漁港は、国道に接し町の玄関口に位置する第1種漁港。背後には小規模な集落が広がり、漁業と農業が営まれる地域である。漁獲は近年減少しているが、アオサ、トサカノリ、ミナ貝、タイ、クロダイ、ウニ、アワビ、伊勢海老、サザエ、なまこなどがある。釣り人が多く集まることや、漁港の近傍にある奇岩「おっぱい岩」を訪れる観光客が多い。また、年に1度、漁港を会場に地域の店舗やが集積する「OPPAI ROCKマルシェ」イベントが開催されている。

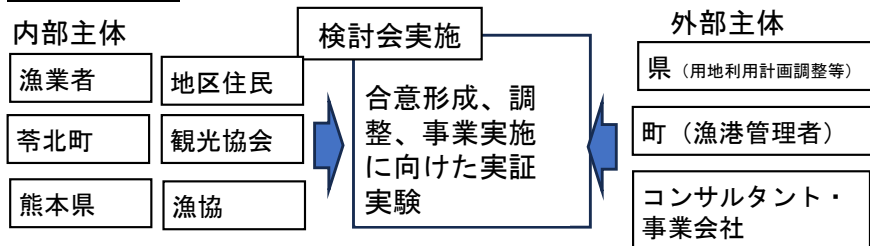
●取組に至った背景

- ・漁業者は減少しているものの、イベントの開催を契機に地域のにぎわいを再生したいという思い、釣り人が訪れるが公衆トイレがないことからのマナートラブルの発生、荷捌き所や漁業用倉庫の老朽化から、地域の漁業の拠点施設、観光拠点、地域住民の活用できる場としての漁港活用を進めたいという考えから、海業の取組を始めた。

●取組の概要

- ・活用類型：漁村体験、釣り、マリンレジャー、飲食、販売他
- ・立地特性：地方・過疎地/離島/観光地（近傍にイルカウォッチングの拠点あり）
- ・施設の状況：新たな施設を整備
- ・活用施設：漁具保管修理施設/荷捌所/野積場/給油施設/物揚場/泊地等
- ・取組内容：トイレ、飲食・物販施設、観光受付、シャワー等サービス施設業

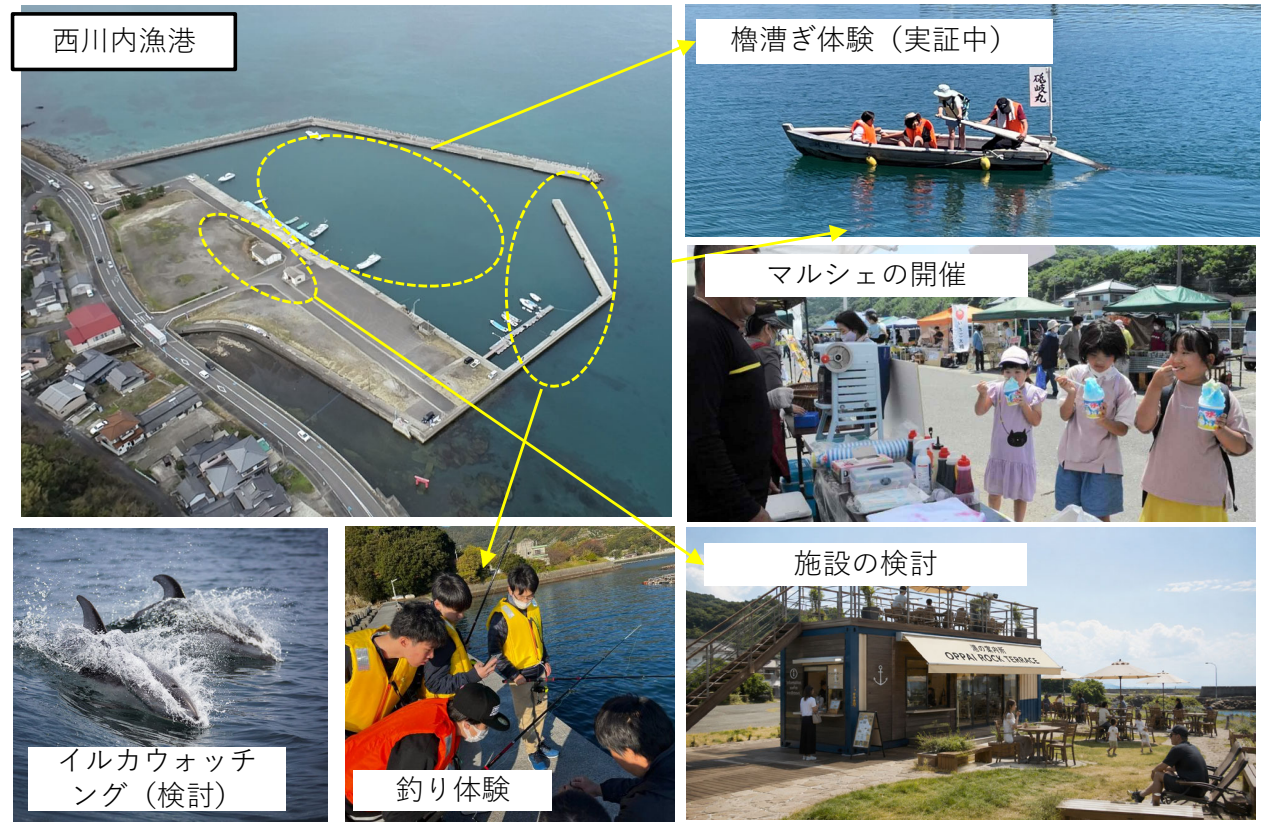
●実施体制



●活用推進計画の概要

- ・計画策定（予定）日：令和9年4月頃
- ・実施（予定）期間：令和9年～令和38年（30年間）
- ・漁港管理者：苓北町
- ・事業目的：地元水産物の消費増進、交流促進
- ・事業概要

漁港用地での漁業および交流・水産物販売・飲食機能に供する複合施設の整備および、イベント等での用地活用、観光船運航等に供する岸壁の活用を位置づける。



期待される成果・効果

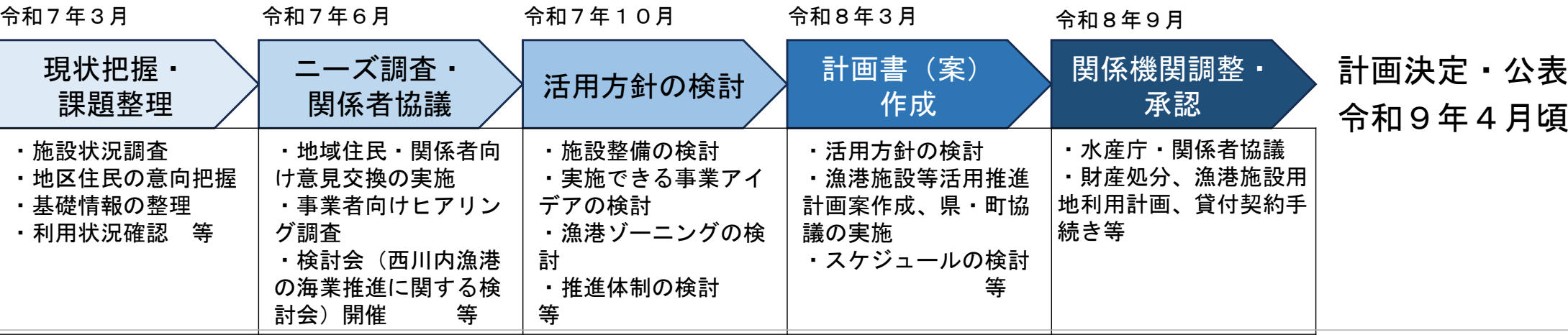
（定量的効果）おっぱい岩訪問客、釣り人などの来訪者による消費拡大、滞留時間の増加による賑わい創出。拠点設置によるイルカウォッチングなど新たなサービス創出や観光案内等での雇用創出等
（定性的効果）地域住民の集いの場としても利用、コミュニティ再生と漁業者の維持、事業承継の実現。

西川内漁港（熊本県苓北町）

●参考情報

- ・関連する法令・通知：苓北町漁港管理条例
- ・参考にした他事例・資料：なし

●活用推進計画策定のプロセス



●合意形成・関係者調整

- ・関係者の範囲：苓北町、熊本県、西川内区（老人会、女性の会を含む）、苓北町観光協会、天草漁業協同組合、苓北町水産振興協議会
- ・調整のために行ったこと：関係者による意見交換の会議を経て、令和7年度西川内漁港の海業推進に関する検討会を組成し、これまでに2回の実施。特に西川内区、観光協会、苓北町による事業検討、漁港での屋外会議、類似事例地区への視察を実施し関係性の構築と海業のイメージ共有に努めた。また、今後海業を推進する主体について、観光協会を中心に協議を実施。
- ・調整において苦労した点：事業を実施する目的意識の浸透により、関係者全員の総意として事業を推進すること。
- ・やってよかった取組：海業の取組、拠点施設整備のイメージ共有のための視察の実施。実証として漁業者のスキルを活用した櫓漕ぎ体験の実施により、漁業者の参加機会を作ることができたこと。地域の昔の写真を集めた写真展を漁港で開催することによる、地域住民の関心を集めたこと。

●課題（原因分析を含む）及び今後の対応方針

- ・計画策定をする上での困難な点：計画の内容を関係者それぞれが共通認識を持ち、取組のアイデアを具体化し、形にすることに時間を要する。特に施設整備に関しては資金調達、事業手法の検討を現在進めている。
- ・海業を実施していく上で現在の課題：施設整備にかかる資金調達、運営主体による事業収益の確保のためのビジネスモデルの構築。漁業者の高齢化、兼業化に対して、漁業の持続継承を図ること。漁港での事業実施にかかる背後集落への騒音、道路渋滞の問題解決。
- ・今後の展開・拡張予定：拠点施設の整備、漁港でのアクティビティ、サービスの事業化。

●他の漁港管理者へのアドバイス

- ・取組を始める際に重要だったこと：海業を前向きに考えられる漁業者、地域住民の存在。運営主体になりうる組織との意識共有。
- ・事前に調整しておけばよかったこと：共通のゴールを関係者で見据えるためのイメージ共有、そのための他地区視察（実施による効果を認識）。